

蜘蛛の糸

朝霧に濡れたその糸は
あまりに綺麗で
君の涙のようだ

空気はとても澄んでいて
もう息をするのは
それほど苦しい事ではない

主は不気味な影を落とし
眠りから覚めた

金色の羽をバタバタさせる
獲物の背中から
ポタリと雫が落ちる

主がその一步を踏み出した……

君の白くて細い指先が
プツリと輝く糸を切る
ああ、残酷で可愛い君よ

いない いない ばあ

いない いない と言ったら
それっきり

見失ってしまった

いない いない
誰も いない
いない いない
声も しない
いない いない

何も 見えない
いない いない
真っ暗な闇の中

「ばあ」と言ったら
それっきり

見つけてしまった

ばあ ばあ
側に いる
ばあ ばあ
声が 聞こえる
ばあ ばあ
光が 見える
真っ青な空の下

いない いない ばあ……

旅人

旅人が

ただ一人……

風に吹かれて

ただ一人……

涙を流して 道をゆく

旅人が

ただ一人……

涙を流して

ただ一人……

涙はやがて 川となり

旅人の 足元を流れる

それでも 前だけ見つめ 道をゆく

旅人が

ただ一人……

前だけ見つめ

ただ一人……

川は流れて 海となり

旅人を 抱きしめる

それでも 自分を信じ 道をゆく

旅人が

ただ一人……

自分を信じ

ただ一人……

優しく抱かれ

ただ一人……

そして考える

この海で溺れて 夢を見よう

息絶えるまで……